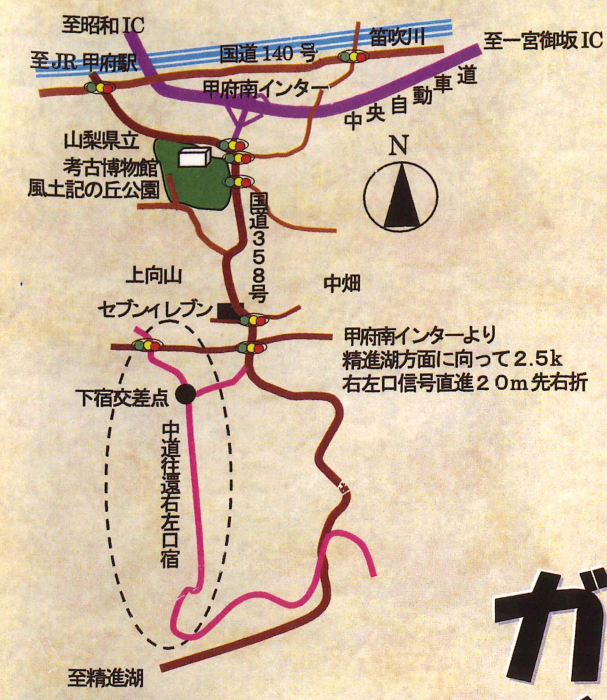


- ①厄除地藏 (カンカン地藏)
- ②道標
- ③御左口神社
- ④東照山・来迎寺
- ⑤下宿交差点 (第5番屯所跡)
- ⑥下宿の道祖神・道標
- ⑦中道往還・右左口宿
- ⑧中道往還の家並み
- ⑨登記所(法務局)跡
- ⑩旅籠跡(米山館)
- ⑪中宿の道祖神
- ⑫柳清水の道祖神
- ⑬泉家の泉
- ⑭旧右左口郵便局跡地
- ⑮上宿の道祖神
- ⑯迦葉山・敬泉寺
- ⑰宝蔵倉
- ⑱二獣三猿金剛像
- ⑲六地藏附厄除地藏
- ⑳歌人山崎方代の生家跡
- ㉑東照神君御殿場跡
- ㉒観音堂
- ㉓山崎方代の歌碑の道
- ㉔道標
- ㉕方代直筆の歌碑
- ㉖馬頭観音
- ㉗秋葉神社の碑と天照皇大神の碑
- ㉘お伊勢さん(右左口の湧水池)
- ㉙右左口神社
- ㉚中道往還石畳
- ㉛強清水
- ㉜枕状溶岩(県指定自然記念物)
- ㉝右左口峠

明治6年右左口
学校創立常福寺
が仮校舎となる

こうふ開府500年レガシー事業補助



作成 右左口宿歴史文化村推進委員会
代表者 平成十七年十二月
木之瀬一雄
改訂日 令和五年一月
代表者 鶴岡社一

歴史と文化の息づく中道往還

右左口宿歴史文化村

ガイドマップ

う ば くちごまへ

至旧上九一色村

中道往還旧道

通称自衛隊道路

場跡

中道往還の石畳

至JR甲府駅
右左口信号

国道358号

至精進湖

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿

中道往還・右左口宿



中畑

セブイレバン

上向山

下宿交差点

中道往還右左口宿

至精進湖

甲府南インターより
精進湖方面に向って2.5k
右左口信号直進2.0m先右折

中央自動車道

国道140号

至昭利IC

至JR甲府駅

至一宮御坂IC

山梨県立
考古博物館
風土記の丘公園

甲府南インター

至JR甲府駅

至昭利IC

至一宮御坂IC

山梨県立
考古博物館
風土記の丘公園

甲府南インター

至JR甲府駅

至昭利IC

至一宮御坂IC

山梨県立
考古博物館
風土記の丘公園

甲府南インター

至JR甲府駅

至昭利IC

至一宮御坂IC

山梨県立
考古博物館
風土記の丘公園

うばぐちじゅく 右左口宿の概要

右左口宿は、甲斐（山梨）と駿河（静岡）とを最短距離で結ぶ中道往還【東の若彦路と西の河内路との中間に位置しているなのでこの名前がつけられました。】の主要な宿場町として栄えました。戦国時代には軍用道路としての重要な役割を果たしています。織田信長が入峡し中道往還を通り安土へ帰るとき、徳川家康により右左口宿は整備されたと言う史実を持ち、多くの旅人や商人が行きかかった歴史のある宿場です。400年以上前から宿場町として栄えたため、徳川家康の御陣屋跡や御朱印状、そして文楽人形（右左口浄瑠璃人形）などが区の宝物として大切に保管されています。

また、右左口宿は「文芸の里」であり、放浪の歌人山崎方代の生誕の地でもあります。

①厄除地蔵（カンカン地蔵）

右左口バス停より徒歩10分、下宿の信号の脇に鎮座している。元禄13（1700）年に作られた「厄除地蔵さん」とよばれ、自分の体の痛い部分と、お地蔵さんの同じ部分を石でたたき痛みが取れるよう、お願いしたため各所が凹んでいます。現在も毎年2月13日にお祭りが行われています。



③御左口神社



右左口バス停より徒歩7分

この土地に大きな勢力を持った豪族があり、そこに珊瑚珠姫がいた。その居住跡が現在の御左口神社である。それが御珊瑚神となり、それが右左口となったと言われています。

②道標

お地蔵様の脇にある道標、享和3（1803）年に降に現在の笛吹市御坂町の鈴木亮達氏が寄進したもので、右「宮原観音への道」左「文珠御崎への道」の刻字があります。



④東照山来迎寺 右左口バス停より徒歩5分

御左口神社入り口右角「東観房大徳院」により大永元（1521）年開基の修験寺で京都醍醐、三宝院の末寺である。現在は創立の石碑と本尊の不動明王像（木像）を残す。



⑤下宿交差点（第5番屯所跡）

甲府から入ってきた場合、上向山の立石で2本に分かれる中道往還は、再度この地で合流します。現在のバス停の場所に右左口駐在所の前身「第5番屯所」があり、その一角に下宿の道祖神が鎮座していました。

⑥下宿の道祖神・道標 右左口バス停正面

天保8（1837）年の刻字のある丸石（女性）の「道祖神」も以前は下宿交差点第5番屯所の一角に鎮座していました。現在は道路拡幅に伴い、反対側の角に移転されています。また、同じ場所に夜間村民旅人の安全を守る「常夜灯・秋葉山」〈文久2（1862）年〉のほか、駿河（静岡）より入ってきて「右 甲府ニ至る 左 市川ニ至る」の刻字のある道標もあります。（写真中央）



⑦中道往還・右左口宿（右左口宿の古い家並み）



下宿交差点より迦葉坂（右左口峠）方面を臨む

⑧古い町並みの面影を今も残す建物群



織田信長往来のため徳川家康によって整備された宿場町。『信長公記』にも登場するほどの歴史を持つ。間口4間2尺（7.7m）の家々が整然と並び、宿駅の風情を色濃く残している。特に、往還を行きかう人々のために宿場沿いに水路や池（井戸）を持つという特徴があります。

⑨登記所（法務局）跡

右左口バス停より徒歩5分「火の見」が立っている場所、この地に国の機関が置かれたのも中道往還が甲斐を代表する往還だったことを物語っています。養蚕（繭）の出荷所として改築されました。現在は集落のお祭り等のときに利用されています。

⑩旅籠跡（米山館）

右左口バス停より徒歩5分 登記所（法務局）のななめ左上。昭和30年中ごろまで中道往還を行き来した、旅人や商人が駿河から険しい峠を越え、甲府を目の前にして一夜の休息をした旅籠の跡が当時の面影を残していましたが現在はその跡地となっています。また、米山館の裏手には浄瑠璃（右左口人形）の芝居小屋があったといわれています。

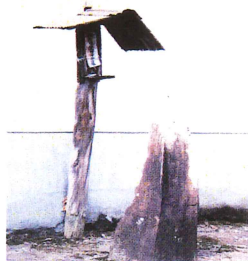
⑪中宿の道祖神

右左口バス停より徒歩5分
旅籠跡(米山館)の右隣り



⑫柳清水の道祖神

右左口バス停より徒歩8分
上宿と中宿の境に位置するこの道は、徳川家康によって整備された中道往還より古い道であり、その一角に自然石の道祖神が祀られています。この地には各所に湧水があったと伝わっています。



⑬泉家の泉

右左口バス停より徒歩10分
この地で「泉」を名乗る家はこの家しかありません。上水道の発達していない時代には、地域の人たちの生活用水でした。今でも清水が湧いていて生活用水として利用されています。

⑭旧右左口郵便局跡



右左口バス停より徒歩13分
明治末期から大正初期に建てられた、かつての建築様式の旧右左口郵便局舎です。当時としては洋風であり人目を引いたことでしょう。よく見ると、カウンターも残り当時の趣を感じることが出来ましたが平成17年に解体され、現在は跡地だけとなっています。

⑮上宿の道祖神



右左口バス停より徒歩15分
敬泉寺の入り口に下宿・中宿の道祖神と同じ丸石の「道祖神」(天明3(1783)年)が「常夜灯・秋葉山」とともに鎮座しています。(以前は上宿の集落の中間にあったものが現在地に移動されている。)



⑰宝蔵倉



右左口浄瑠璃人形



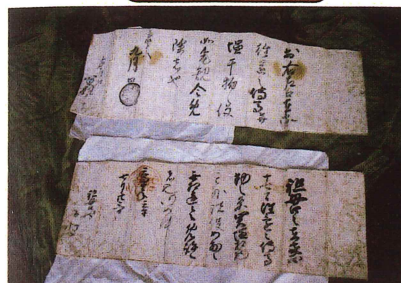
甲斐と駿河を最短で結んだ古道「中道往還」沿いの上宿敬泉寺前にある徳川の家紋を瓦にもつこの蔵は、古いものでは約400年前から区の宝である「徳川家康朱印状」をはじめとする県指定「右左口区有文書及び関連資料」(2520点)類や、地元では「おでんぐさん」とよんでいる「県指定右左口浄瑠璃人形」(181点)などが大切に保存されてきました。しかし、近年までは2年に一度の虫干し以外は開錠されることがなく、良好な状態で保存に努めてきましたが、最近劣化が進んだため、現在は県立博物館に寄託し、保管されています。



⑯迦葉山敬泉寺

右左口バス停より15分
慶長10(1605)年創設 浄土宗に属す。家康往来の折の仮御殿として協力したという記録もあることから慶長以前には建物がすでに存在したと推測されます。瓦には「葵」が刻まれ、徳川と深い関係であったことも伺えます。

「徳川家康朱印状」



⑱二獣三猿金剛像

宝蔵倉のよこにある二獣三猿の金剛像は宝永8(1711)年4月の刻字のある非常に珍しい石像であります。江戸時代に多い庚申塔であり、この地域で庚申供養が盛んであったことがわかります。※「宝永8年」は現在では「正徳元年」で扱われています。



⑲六地藏 附 厄除地蔵

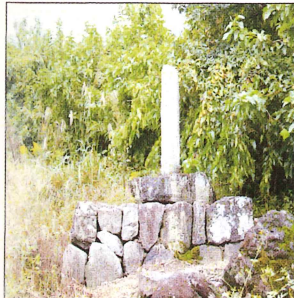
金剛像の並びにある六地藏は元禄9(1696)年銘のある非常に古いものです。(木造)また、六地藏に囲まれて鎮座しているのは厄除地蔵であり、①の地蔵と向かい合って右左口宿を守っているという伝えがあります。



⑳山崎方代生家跡 宝蔵倉の東隣

放浪の歌人といわれる方代は、大正3(1914)年この地に生まれる。昭和12年に母を亡くし、昭和13年横浜の姉に父とともに引き取られる。戦争で片眼の視力をなくすなどさまざまな苦しみの中で望郷の「うた」を作り、やがて鎌倉に住んだ。昭和30年歌集「方代」を自主出版する。昭和50(1975)年文芸雑誌「短歌」のはじめての愛読者賞に選ばれる。歌集「右左口」「こおろぎ」「首」エッセイ「青じその花」などを出版する。平成8年度高等学校国語教科書「現代文」に短歌が掲載されました。

㉑東照神君御殿場跡



右左口バス停より徒歩20分
方代生家跡の上の道を観音堂に向って水路右上、天正10(1582)年徳川家康甲斐入国の折、右左口宿に滞在したときの仮御殿跡。このときの右左口衆の活躍に「朱印状」による諸役免除・関所通行の自由化などの特権が与えられます。
※特権…右左口商人へ出された商売の特権、中でも免税により、右左口宿は栄えました。

22 観音堂

右左口バス停より徒歩20分方代生家跡奥真正面に見える赤い屋根の建物。33年に1度ご開帳される、平安時代末期のサクラの寄木作り「十一面観音立像」(指定文化財)が安置されています。子供たちによる奉納相撲大会もこの場所で行われています。



23 25 山崎方代歌碑の道

右左口バス停より徒歩25分
方代歌碑の道終点には方代直筆の歌碑がある。方代生家跡から観音堂、歩道を抜けて宿スポーツ広場(堤跡)まで方代歌碑が並んでいます。1年を通して愛好者が訪れています。左の写真の石碑は現在「方代生家跡」にあり、他は「右左口の里」へ移転。

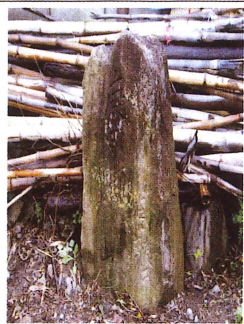
ふるさとの右左口郷は
骨壺の底にゆられて
吾が帰る村



山崎方代直筆の歌碑

24 道標

右左口バス停より徒歩25分
(方代歌碑の道と中道往還の合流地点) 甲府から入って、中道往還右左口宿の出口にある道標「右駿河 左山道」と刻字されている。



26 馬頭観音

道標より徒歩2~3分
道路左側の水田の畦下、よく確認して行かないと通り過ぎてしまいます。中道往還の右左口宿をすぎ、ここから険しい山道と続きます。最初の路傍の石仏です。



27 秋葉神社の碑と天照皇大神の碑

秋葉神社は火の神様です。火災を恐れたのでしょう。「秋葉講」を行っていたことがわかります。また、天照皇大神の碑には明治43年の年号が刻まれています。大須成村(現在の身延町)の個人がここに建立しました。



右左口バス停から30分
旧中道町を代表する冷水の湧出地。ここから湧き出る水は夏ひときわ冷たく霊水として知られている。この冷水が右左口宿の簡易水道の源でもありました。

28 お伊勢さん



宿の集落をすぎて敬泉寺あたりから中道往還は急峻となり、行き交う旅人や商人には苦難の道であったと考えられます。土留めと蹄止めとして作られた石畳は当時の面影を今に残しています。

30 中道往還の石畳



《私たちの住む山梨県は、四方山で囲まれているため、昔から海で取れる魚や貝、塩などはお隣の静岡県から輸送をしていました。その輸送に使われていたのが、「中道往還」です。現在では、交通網の発達により中道往還を使うことはなくなっていますが、当時は静岡からの最短ルートとして利用されていたのです。主に海産物を運んだことから中道往還は別名「魚道」と呼ばれるようになりました。中道往還は富士山麓など比較的標高の高いところを通るため夏でも涼しく、生鮮魚介類の新鮮さを保つために大変重宝されたということです。また、輸送の際に偶然生み出されたものが現在では山梨県の名物となっている「煮鮑」です。駿河湾で取れた鮑を醤油で煮しめ、樽詰めにして静岡県を出発し中道往還を通り甲府に着くころには味のよい煮鮑になっていたという偶然から作り出された名物です。(なかみちふるさとより抜粋)

31 強清水

宿の集落と峠のほぼ中間に位置している湧水地であり、重き荷物と急なる坂で疲れた体を癒す休憩地としてかつては愛用されていたのであろう。昭和48年、甲府精進湖有料道路(現在の国道358号線)として右左口トンネルの開通により湧き水は絶えてしまいました。当時を偲ばせる面影と「親は諸白、子は清水」という親子愛を語った「強清水伝説」が残るのみである。



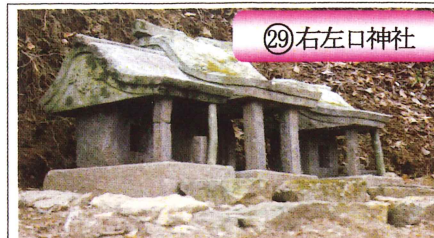
32 枕上溶岩 (県指定特別自然記念物) お伊勢さんより歩いて1時間30分

太古の昔御坂山系は海底であったことを証明しています。海底で溶岩が急激に冷やされ、転がりながら固まったために昔の丸太のような枕のような姿をしています。

33 右左口峠 お伊勢さんより歩いて2時間

頂上の展望はすばらしく、甲府盆地が一望に見え、南を向けば富士山が見えます。昭和30年ごろまで東屋が立っていましたが、台風で倒され現在はありません。この峠を下ると旧上九一色村に出ます。

29 右左口神社



①のお地藏さんと上宿の敬泉寺入口にある六地藏さん、右左口神社が一線で結ばれて、宿の集落を災害から守っていると言い伝えられている。石祠には「文政七甲申 歳 四月二二日」の刻字がある。180年前から数えて3回目の甲申 歳に当たる年に、発掘されたのである。右左口神社の祠が、180年前にこの場所に鎮座し右左口宿の歴史がどのように作られてきたのか、また右左口宿の集落を災害にあわないよう、見守られてきたのだと思う。